

昭和41年春季年会（東京）

講演予稿集

於 東京大学理学部二号館

日本天文学会

目 次

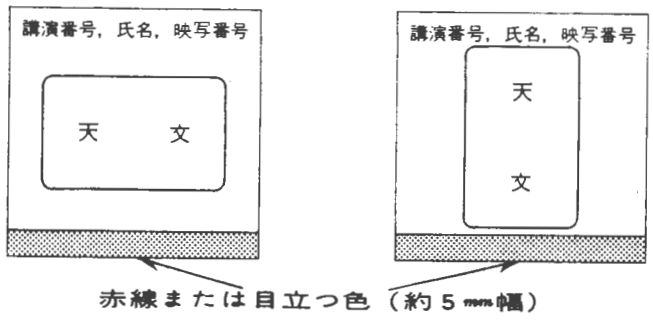
	概 略 内 容 分 類	講 演 番 号	頁
第 1 日 午 前	位 置 天 文 学	1 - 11	2
第 1 日 午 後	天 体 力 学	12 - 18	4
	太 陽 系 天 文 学	19 - 29	6
第 2 日 午 前	恒 星 系 ・ 小 宇 宙	30 - 33	10
	宇 宙 論	34	11
第 2 日 午 後	太 陽 物 理 学	35 - 58	11
第 3 日 午 前	恒 星 物 理 学	59 - 76	17
第 3 日 午 後	星 間 物 質	77 - 89	21

註：講演所要時間の前の ㊦ の印はスライドを使用するもの

スライド映写希望者におねがい

スライド映写にあたって、順序、表裏、上下等をまちがえないためにスライド板に下記のような説明と、記号をつけて下さい。

下の㊦は、写されたものがこうあってほしいと思うように、スライド板を手にとった状態です。このむきで、下図のように上左から、講演番号、氏名、映写番号を右へ順に記入し、さらにスライド枠の下端に5mm幅の赤線を、たとえばマジックインキで、1本入れます。もし、枠の地色が赤に近ければ、暗いところでよく見分けられると思われる色を任意に選んで下さい。



日本天文学会1966年春季年会 プログラム

◇日時 昭和41年5月12日(木), 13日(金), 14日(土)

◇場所 東京都文京区本郷7丁目3の1, 東大理学部2号館講堂

	午前 (9時より)	午後 (1時より)	夜
12日 (木)	研究発表	研究発表	
13日 (金)	研究発表	研究発表	懇親会
14日 (土)	研究発表	研究発表	

- ★ 講演申込がかなり多くなりましたが, なるべく2会場に分けない方がよいとの会員諸氏の意見により, 時間割りはいつもより窮屈になっておりますので, 講演者は, 時間厳守に御協力をお願いします,
- ★ 12日正午より評議員会, 13日正午より総会, 14日正午より理事会を開催します.

第 1 日 5 月 12 日 (木)

[午前] (9時より)

分

1. 奥田豊三, 高木重次, 角田忠一, 弓滋, 須川力 (緯度観測所): 光波干渉式座標測定器の試作10
2. 後藤進, 高橋久太郎, 佐々木恒 (緯度観測所): 緯度観測におけるシンチレーションについて10
3. 須川力, 古川麒一郎, 横山紘一 (緯度観測所): Astrolabe の予備観測15
4. 古川麒一郎, 春山仁* (緯度観測所, *国土地理院): 2 種類の Astrolabe による比較観測10
5. 若生康二郎 (緯度観測所): 自由章動の振幅, 周期, 位相について (II)10
6. 奥田豊三, 須川力 (緯度観測所): 極の永年変化 (II)15
7. 高木重次 (緯度観測所): 緯度の永年変化の問題点について10
8. 高木重次 (緯度観測所): 極運重力の確率運動方程式について10
9. 飯島重孝, 虎尾三春, 藤原清 (東京天文台): GBR の日周位相変化の季節的推移 (II)10
10. 飯島重孝, 岡崎清市 (東京天文台): 地球自転速度の年周変化12
11. 伊奈辰之 (東京天文台): ゴーチエ 8 吋×環の Instrumental System について 8

[午後] (1時より)

12. 関口直甫 (東京天文台): 月の自由秤動10
13. 堀源一郎 (東大理): 摂動函数の長年項について10
14. 堀源一郎 (東大理): 衛星運動論における長年摂動10
15. 菊池定衛門 (東北大大理): 臨界傾角は特異点ではなく正則点である10
16. 井上猛 (東北大大理): 人工衛星の運動理論における Garfinkel の一次近似理論について10
17. 秋山薫, 竹内端夫*, 平山智啓* (法政大学, *東京天文台): ヒルダ群小惑星の運動 (III) 6
18. 畑中至純 (東京天文台): 冥王星の軌道15
19. 松島訓 (東大理, アイオワ大): 上層大気中の dust の形状および密度分布10
20. 広瀬秀雄, 冨田弘一郎, 長沢工* (東京天文台, 東大地震研): 獅子座流星群の観測概報 7
21. 赤羽徳英 (京大花山天文台): Wrinkle Ridge について 8
22. 松丸勝 (防衛大): レンジャー衛星にて得られた月面 TV 写真 (その 2) 6
23. 土屋淳, 長根潔, 能登谷直邦 (東京天文台): 17 G c/s での月の観測10
24. 松島訓 (東大理, アイオワ大): Magnetosphere の月面に及ぼす影響10
25. James E. Hansen (東大理, アイオワ大): 金星の大気構造と表面温度10
26. 上野季夫 (京大理): 反射底面を有する非均質大気による光の散乱について 8
27. 宮本正太郎 (京大理, 花山天文台): 地球型惑星のマントル対流について 7
28. 平山淳, 守山史生 (東京天文台): イケヤ・セキ彗星の観測 7
29. 松島訓 (東大理, アイオワ大): 太陽系外惑星の頻度分布10

第 2 日 5 月 13 日 (金)

〔午前〕 (9 時より)

- 30. 石田五郎 (東京天文台, リック天文台): 実視連星の視線速度観測……………10
- 31. 高瀬文志郎 (東大理): Galaxies の力学的諸量の統計 (統報)……………10
- 32. 宮本昌典 (東京天文台): 棒状銀河系の複合モデル (II)……………10
- 33. 清水暲 (京大理): Random Gravitational Force の評価……………10
- 34. 堀源一郎 (東大理): 特殊相対論と膨張宇宙……………10
- 35. 松丸勝, 江沢正 (防衛大): ビデオスペクトロヘリオスコープの概要 (その2)… 7
- 36. 鈴木義正 (京都教育大): 小黑点 (直径 5000~1000 km) の深さについて………… 8
- 37. 辻村民之, 堀井政三 (京大, 生駒山太陽観測所): IQSY 間の太陽活動観測結果について…………… 7
- 38. 牧田貢, 清水実* (東京天文台, *岡山天体物理観測所): 1965 年 11 月 23 日の部分食より求めた散乱関数……………10
- 39. 辻隆 (東大理): 太陽の赤外輻射強度について……………10
- 40. 日江井栄二郎 (東京天文台): 太陽の可視域連続光と極紫外域連続光との比較… 7
- 41. 松島訓, 寺下陽一* (東大理, アイオワ大, *京大理): 太陽大気の外層領域における連続吸収線について……………12

〔午後〕 (1 時より)

- 42. 牧田貢 (東京天文台): 黒点暗部のスペクトル Fe II, Cr II の吸収線は存在するか……………10
- 43. 牧田貢 (東京天文台): 1958 年日食の閃光スペクトルの H, K, H₂ 輝線の測定……………10
- 44. 末元善三郎 (東大理): K 線の輪廓について……………10
- 45. 石沢俊亮 (京大理): Ca II K 線の線中心における強度と彩層の不均質……………10
- 46. 神野光男, 田中利一郎* (京大花山天文台, *新潟大): 太陽遷移領域の幾何学的構造について…………… 8
- 47. 平山淳 (東京天文台): プロミネンスの上昇運動について…………… 7
- 48. 為永辰郎 (京大理): プロミネンスの鋭い水素輝線の観測…………… 5
- 49. 梶都生夫 (大分大学芸): コロナ・コンデンセーションの新しいモデル……………10
- 50. 長根潔, 甲斐敏造, 塩見靖彦, 能登谷直邦 (東京天文台): 17 G c/s 8 要素干渉計の調整と観測例……………10
- 51. 土屋淳, 長根潔, 塩見靖彦 (東京天文台): 17 G c/s での太陽電波 S 成分等の観測……………10
- 52. 土屋淳, 渋谷暢孝, 甲斐敏造 (東京天文台): デシメートル波帯における太陽電波の観測…………… 8
- 53. 高倉達雄, 甲斐敏造, 土屋淳 (東京天文台): solar cycle の初期における太陽電波活動……………10
- 54. 緩目信三 (東大理, 名大空電研): ノイズストームと地磁気指数 (K_p) との関係…………… 5
- 55. 河鱒公昭 (東京天文台): プラズマ雲の加速とフレアの起源……………10
- 56. 内田豊 (東京天文台, High Altitude Observatory): 太陽表面附近の大気構造中における重力流体力学波の振舞について……………10

57. 加藤正二 (東大理): 媒質の圧縮性の振動的対流への影響……………10
 58. 桜井健郎 (京大工): 太陽の自転の流体力学的研究……………10

第 3 日 5 月 14 日 (土)

[午前] (9時より)

59. 前沢潔 (山形大文理): Coriolis force のもとでのガス球の不均一回転…………… 8
 60. 杉本大一郎・山本嘉昭 (名大理): 第二ヘリウム・フラッシュと炭素の起源…………… 5
 61. 竹内峯 (東北大理): δ Cep の“位相のずれ”について (2)…………… 5
 62. 加藤正二, 海野和三郎 (東大理): 重力収縮による脈動不安定性……………10
 63. 海野和三郎, 岡本功 (東大理): 脈動星に対する Baker の一層モデルの改良……………10
 64. 尾崎洋二 (東大理): 大質量星の進化について……………10
 65. 細川良正 (山形大文理): 分離型食連星の光度曲線に及ぼす主星自転の効果…………… 7
 66. 北村正利 (東京天文台): 食変光星 TX Cnc の光電測光 (そのII)…………… 7
 67. 小平桂一, 海野和三郎*, 近藤正明* (東京天文台, *東大理): 188 cm 望遠鏡
クレーズ焦点における Instrumental Polarization…………… 5
 68. 大沢清輝, 市村喜八郎, 西村史朗 (東京天文台): HD 30353 の変光振の増大…………… 5
 69. 大沢清輝 (東京天文台): HD 221568 の連続スペクトルの解釈…………… 7
 70. 小平桂一 (東京天文台): A 型特異星 HD 221568 のスペクトル分析…………… 7
 71. 長谷川靖子 (京大理): NON GRAY MODEL 大気…………… 7
 72. 寺下陽一, *松島訓 (京大理, *東大理, *アイオワ大): DA 型白色矮星大気
内のヘリウム…………… 7

[午後] (1時より)

73. 辻隆 (東大理): 低温度星の大気構造……………15
 74. 藤田良雄, 辻隆, 前原英夫 (東大理): 炭素星における C^{12}/C^{13} 比量について (III)……………10
 75. 下小田博一 (愛知学芸大): 運動状態にある恒星大気中の原子の population ratio について…………… 8
 76. 平田龍幸, 上杉明 (京大理): Balmer Decrements…………… 7
 77. 橋本敏造 (京大理): 広がった大気における輻射場の運動論について (I)…………… 7
 78. 大谷浩, 小暮智一 (京大理): 星間衝撃波の構造 (II)……………10
 79. 高柳和智 (竜谷大, 京大理): M 87 近傍の compact galaxy について…………… 5
 80. 大谷浩 (京大理): カニ星雲のスペクトル観測…………… 7
 81. 高橋孝雄, 宮沢敬輔, 赤羽賢司 (東京天文台): 1417 メガサイクルにおける Cyg X の観測…………… 7
 82. 松岡勝, 早川幸男*, 山下順*, 小川英夫* (東大宇宙研, *名大理): 銀河 X 線の観測結果……………15
 83. 高倉達朗, 土屋淳, 長根潔 (東京天文台): ロケットによる 3 M c/s 銀河電波の観測……………10
 84. 早川幸男, 奥田治之, 杉本大一郎, 松岡勝, 松本敏雄, 小川英夫 (名大理): 赤外線による天体およびバックグラウンドの観測……………15
 85. 渡辺堯, 小暮智一, 大谷浩, 伊藤周宮子 (京大理): NGC 4258 の分光観測…………… 6
 86. 佐藤文男 (東大理): NGC 1068 の核のガスの電離機構について…………… 7
 87. 菊池仙 (東大理): 星間雲の収縮について……………10
 88. 森本雅樹, 石沢慎弘*, 宮沢敬輔 (東京天文台, *電波研): H II 領域の電波観測 (I)……………10
 89. 横井寛, 佐藤敏雄 (国際電大): 電波星のフラックス測定……………10